



令和3年度 福賀小だより

Vol.18
2022.1.14

進みつつある人(教師)のみ、人を教うる権利あり!

「進みつつある人(教師)のみ
人を教うる権利あり」

明けましておめでとうございます。
本年もよろしくお願いたします。

さて、最初に書いた言葉は
私が学んだ大学で、
教員を目指す学生に対して
常に投げかけられていた言葉です。
新年を迎えるにあたり
子ども達に
「何をするにも気持ちが大切。
気持ち次第で見方・考え方が変わってくる！」
という話をし、
「私は、いろいろなことに取り組む際、
常に前向きな気持ちを大切にしたい！」
という考えを伝えました。
そして、
最初に掲げた学生時代に聞いた言葉を
改めて思い出し、
「これからも常に進みつつある！」という
前向きさを忘れまい!と決意したところです。

後期の学校評価で
「子どもたちの成長が感じられる！」
という地域の方からたくさんの嬉しい声を
いただきました!
そう、今現在、
「福賀っ子=進みつつある人」なのです!

書き初め大会で、
ソフィア先生に真護君が
習字を教えてあげていました。
…うん。君には人に教える権利があります!



始業式の一場面



書き初め大会の一場面

後期学校評価の集計結果から

12月に実施しました
後期の学校評価アンケート。
学校運営協議会で意見をいただくことは
まだできていませんが、
集計結果から分かること等紹介いたします。

また、3学期の教育活動のできることから
結果を踏まえた見直しや改善等、
進めていきたいと思えます。

※ 集計結果の全容については、
別紙 学校評価集計結果をご覧ください。

【学校に関わること】

- ・前期の評価より結果は向上しているが、学校が「積極性」と「表現力」を重点取組事項として取り組んでいるということほど、阿武町小中3校で共通して取り組んでいることについては、浸透していない。
- ・阿武町で共通理解すること
めざす姿…①ふるさとを愛する人②自分の言葉で伝える人③つながりを大切にすること④たくましく育つ人
育てたい心と力…①きづく②きめる③かかわる④やりぬく

- ・今年度は、地元「福賀」にスポットを当てた取組が増え、児童がたくさんの人と関わり学びを深めている。その中で児童自身の成長が感じられることに、児童・教職員・保護者・地域ともに手応えを感じている。特に地域の評価は、前期と比較しアップしている。
- ・子ども自身、そして児童の身近な存在である保護者や教職員は、前期と比較し厳しく評価している傾向にある。
- ・児童のあいさつが良くなっているという地域方の記述が見られる。
- ・学校が楽しい・ふるさとが好きという項目については、さらにアップしている

【家庭に関わること】

- ・早寝の習慣が身につけていないことが前期よりもポイントが下がっている。
- ・ほとんどの児童が宿題を児童クラブで終わらせているため、保護者も児童の様子が見ていない場合が多いようである。
- ・読書について、家で読む習慣はあまり身につけていないようである。

- ・学校側も家庭学習の取組について家庭との連携が弱いと感じている。
- ・家での手伝いについては、児童も保護者も進んでできていないと感じている。
- ・保護者アンケートの「分からない」の選択は減ってきているが、さらに減るような努力が必要である。

【地域に関わること】

- ・前期評価後に行われた学校の取組に関わった全ての方に回答のお願いをしたことにより回答依頼の数が前期と比較し約1.5倍に増えている。
- ・児童と直接接する機会があった地域の方は、児童の「積極性」と「表現力」について、良い評価をしてくださっている。

- ・重点取組事項に対して学校が取り組んでいることを感じてもらえている。
- ・児童の姿から元気をもたらす。子ども達は地域の宝だという言葉をいただいている。
- ・コロナ禍でもあり、子どもの姿を目にする機会が少ないのは事実なので、意識して丁寧な情報発信を行う必要がある。

